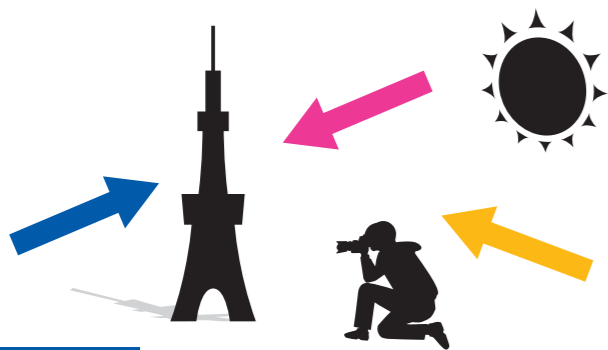


02 光と影を操ろう

光の向きや撮りたいものとの距離を少し工夫してみましょう。

今まで気づかなかった面白さに出会えるかもしれません。太陽との位置関係で見え方は大きく変わります。

また、暗所で輝くイルミネーションなど夜景の撮影にも挑戦してみましょう。



逆光



被写体の後ろから光が当たっている状態です。被写体をシルエットにすることができ、ドラマチックな写真になります。また、被写体の輪郭をくっきり浮かび上がらせることもでき、独特な雰囲気が出ます。

順光

被写体の正面から光が当たっている状態です。色や形をはっきり写すことができ、肉眼で見たときに近い色を表現できます。



斜光

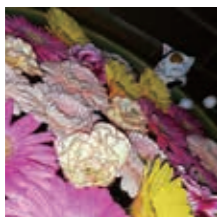
被写体に斜め手前から光が当たっている状態です。被写体の影ができるので、立体感を表現しやすく、1枚の写真の中でストーリーを感じられます。季節や時間によっても影の長さの変化を楽しむことができます。



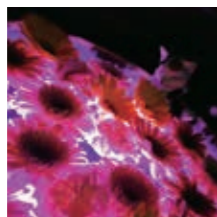
夜景や花手水ライトアップを撮ってみよう

平面的になってしまうのでフラッシュ機能はオフにしましょう。そして、主役となる場所をタッチシントを合わせて、明るさ調整をします。機種によっては「ナイト(夜景)モード」などもあるので活用してみましょう。

フラッシュあり



フラッシュなし



セルフタイマーでぶれ防止!

暗い場所では特に写真がぶれやすいです。そこで、撮影ボタンを押すときにスマートフォンが動いてしまうのを防ぐために「セルフタイマー」を使用します。数秒のタイマーをセットし撮影ボタンを押したら脇をしっかり締めて固定しましょう。セルフタイマーは自撮りするときにもおすすめです。



#行田市の魅力を発信しよう



常に携帯していて思い立ったときにいつでも撮れるスマートフォンのカメラ。その性能も画質も年々進化し、機種によっては、デジタルカメラのように鮮明で美しい写真が撮れるものもあります。

目の前の風景や食べたもの、行田の魅力をみんなで発信してみませんか。スマホ写真の魅力と、より広く情報発信する方法を紹介します。

01 スマホカメラの基本を学ぼう

総務省が実施した令和2年通信利用動向調査によると、86.8パーセントの世帯がスマートフォンを持っており、以前にも増して気軽に写真撮影を楽しむことができるようになりました。しかし、撮った写真を見返してみると同じ構図ばかりが目についたり、カメラの機能を存分に使いこなせていなかったりと、まだまだ写真の腕を上げられる可能性を秘めているはず。写真をもっと楽しむために、スマートフォンのカメラ機能を改めて確認してみましょう。

露出(明るさ)調整

写真の明るさを調整します。明るくするにはプラス補正、暗くするにはマイナス補正をします。



HDR機能

明るさの違う複数枚の写真が自動的に撮影され、合成される機能です。部屋の中から外を写す場合など明暗差が激しいときに活躍します。※対応機種のみ

ポートレートモード

(「背景をぼかす」モード)ピントを合わせたいものをタップ(画面に触れること)すると、背景がぼけて被写体を引き立たせてくれます。※対応機種のみ



トリミング・傾き補正

写真に写りこんでしまった不要な部分を切り取ったり、傾きを直したりして編集することができます。